

第25回

産業革命と社会問題

監修・講師
 山下範久

学習のねらい

18世紀の後半、イギリスにおいて、綿工業における技術革新を皮切りに、機械と蒸気機関を用いる大規模な工場制度が普及した。この結果、飛躍的に生産性が高まって、経済の中心が農業から工業へと大きく変革した。これを産業革命という。産業革命は生産性を向上させた反面、工場を経営する資本家による労働者の酷使などの深刻な社会問題を引き起こし、働く人々の権利を守ろうとする社会主義思想が発展するようになった。今回は産業革命が起こった背景と、産業革命によって引き起こされた社会と人々の暮らしの変化について学習する。

＜産業革命と大量生産時代＞

綿織物工業 蒸気機関 都市の人口増加

＜社会問題の発生＞

工場法 社会主義思想 ロバート・オーウェン

＜変わる世界経済＞

原料供給と製品市場としての植民地 「世界の工場」

■ ■ 産業革命と大量生産時代 ■ ■

18世紀後半、大西洋の三角貿易を通じて資本を蓄積し、綿花などの原料へのアクセスを確保していたイギリスでは、他方で農業革命を通じて人口が増大し、大量の労働者・消費者が準備されていた。綿織物は17世紀以来インドからの輸入に頼っていたが、飛び杼（ジョン・ケイによる飛び杼の発明、1733年）、紡績機（ハーグリーブスによるジェニー紡績機の発明、1764年ごろ、アークライトによる水力紡績機の発明、1769年、クランプトンによるミュール紡績機の発明、1779年）、蒸気機関（ワットによる蒸気機関の改良、1765～69年）、織機（カートライトによる力織機の発明、1785年）などの技術革新の連鎖が生じて、国産化が可能になった。機械と動力を用いた大規模な工場制機械工業は大量生産を可能にし、それまで職人がもっていた熟練技術の意味は薄れ、工場働く賃金労働者へと変わっていった。

社会問題の発生

工場制の拡大は、多くの賃金労働者を生み出した。そのなかには社会的な立場が弱く安価な労働力として、女性や子どもも多く含まれていた。労働者はしばしば危険で劣悪な労働環境のなかで長時間、酷使され、大きな社会問題となった。イギリスでは、政府は**工場法**を出して、労働時間の短縮、女性や子どもの労働条件の改善を図ろうとした。他方、労働者も団結して労働組合を結成し、資本家に対して団体のちからで労働条件の改善を求めるようになった。イギリスの**ロバート・オーウェン**やフランスの**サン・シモン**、**フーリエ**、**プルードン**ら、資本家と労働者のあいだの階級の不平等を解消した理想の社会を構想する**社会主義の思想**が現れるようになった。特に**マルクス**と**エンゲルス**は資本主義社会の原理的矛盾を説く**社会主義理論**を展開し、後世に大きな影響を与えた。

変わる世界経済

産業革命を成し遂げたイギリスは、インドなどの植民地を、原料の生産国、そしてイギリスで生産された商品を売る市場としていった。また 19 世紀前半にはラテンアメリカではヨーロッパの植民地だった国々が次々と独立し、イギリスは、近代化を目指す、そのような新興の独立国にも鉄道を建設するなど、資本を投下して自国の工業製品の市場としていった。世界中に巨大な市場を抱え、自国で生産した製品を販売するイギリスは「**世界の工場**」と呼ばれるようになった。

また産業革命は、イギリスをはじめ、世界の都市化を促し、時間給による働き方など都市に特有の生活様式が広まることとなった。

考えてみよう 調べてみよう

- 身近な鉄道路線がいつ開通したものか調べてみよう。
- 世界の主要な都市の人口の推移を調べてみよう。
- 労働者の権利を守る法律にどのようなものがあるか調べてみよう。